

### 第31回原子力安全文化有識者会議 議事概要

- 開催日時 2024年2月29日(木) 14時30分～17時
- 開催場所 松江勤労者総合福祉センター「松江テルサ」 1階ホール
- 出席者 〔社外委員〕梅林委員、亀城委員、高尾委員、竹上委員  
※児玉委員、山浦委員はご欠席。  
〔社内委員〕北野副社長、長谷川常務  
〔幹事〕高場原子力強化プロジェクト長

#### ○ 議事内容

##### 1. 開会あいさつ(高場幹事)

- ・ 当社は、点検不備問題等の過去の不適切事案を踏まえ、コンプライアンス最優先に取り組んできたにも関わらず、昨年来、公正取引委員会からの独占禁止法に基づく排除措置命令・課徴金納付命令の受領や、中国電力ネットワーク株式会社が管理するお客さま情報の不正閲覧等の不適切事案が発生しました。未だコンプライアンス最優先が十分に浸透していなかったものと重く受け止めており、昨年、「不適切事案再発防止対応本部」を設置し、様々な再発防止策に取り組んでいるところですが、引き続き一連の事案の背景にあります思考・行動様式の問題に踏み込んで検討・対策を実施し、全社を挙げて地域の皆さまからの信頼を回復できるよう全力で取り組んでまいります。
- ・ 島根原子力発電所2号機については、現在、今年8月の再稼働を目指し、原子力規制委員会の残りの審査と並行して、安全対策工事に全力で取り組んでいるところです。そのような中、昨年末、発電所構内での作業中に本当に痛ましい労働災害が発生しました。亡くなられた方のご冥福を心よりお祈りするとともに、しっかりと再発防止に努め、今後も引き続き安全の確保を最優先に、より一層気を引き締めて取り組んでまいります。
- ・ 原子力発電所の稼働にあたっては、地域の皆さまからの信頼が何より重要です。「社員一人ひとりが、それぞれの職場において日々誠実に業務に取り組み、全社一丸となって原子力安全文化を追求することが信頼につながる」ことをいま一度肝に銘じるとともに、本会議でいただいたご意見・ご提言を取り入れながら、協力会社と一体となって取り組んでまいります。
- ・ 本日は委員の皆さまから忌憚のないご意見・ご提言を賜り、それを今後の取組みに反映させ、原子力安全文化醸成の一層の強化に努めてまいりたいと考えております。

##### 2. 議事等

###### (1) 点検不備問題に係る再発防止対策の実施状況・評価ほかについて

資料にもとづき、小川電源事業本部部長および川本原子力強化プロジェクト部長から説明し、質疑を行った。主な意見は以下のとおり。

〔中国電力からの情報発信に関する意見〕

- ・ 原子力発電所の安全対策について分かることが大事であり、能登半島地震に係る新聞報道等を目にすると非常に不安になるが、そういった不安要素を払拭するような内容をインターネットでも確かめることができるとよい。

[不適切事案の風化防止に関する意見]

- ・ 時間の流れは速く、過去の不適切事案が徐々に風化する中、そういった事案を若い社員が自分事として強く意識できるかが不安である。不適切事案の教訓を今後どう活かしていくかという点について対策を講じないと、若い社員にはなかなか伝わらないのではないかと。

[その他意見]

- ・ 今後、若い社員にとっては再稼働ではなく新規稼働時のようなプレッシャーの中で業務を行うことになるので、再稼働というものを過去からの流れだけではなく、新たな取り組みとして位置づける必要がある。
- ・ 自分の周囲には、「いくら立派な仕組みを構築してもそれを動かすのは人間であり、ヒューマンエラーが一旦起きてしまうと被害は甚大なものになる」という漠然とした不安を持つ人が多い。
- ・ 中国電力におかれては、これからも緊張感を持って予定どおり「安全第一」「地元の理解第一」で業務運営を進めてほしい。

## (2) 原子力安全文化醸成に向けた取り組みについて

資料にもとづき、小川電源事業本部部長から説明し、質疑を行った。主な意見は以下のとおり。

[コミュニケーションに関する意見]

- ・ ある調査によると、若い世代は経営層の意見を直接聴きたいという傾向にあるので、中国電力でも経営層と意見交換する機会をもっと増やした方がよい。

[各種アンケートの評価に関する意見]

- ・ 肯定的な回答をした人の考え方は大体同様の傾向が見られるが、否定的な回答をした人は、それぞれ異なる視点での考えを持っているため、アンケートの少数意見の中にこそ発見すべき宝がある。

## (3) 情報提供：島根原子力発電所 新規規制基準適合性審査の状況ほかについて

資料にもとづき、谷浦電源事業本部部長から情報提供を行った。

主な意見は以下のとおり。

- ・ 能登半島地震に係る中国電力の説明を聴くと、原子力に関しては安心であることが理解できた。ぜひとも地域住民に対し、このような説明の機会を設けてほしい。そういう情報発信が、地域住民の安心につながるものと思う。

## 3. 閉会あいさつ（高場幹事）

- ・ 本日も多岐にわたるご意見・ご提言を賜り感謝申し上げます。
- ・ いただいたご意見やご提言として、「（一般の方々にとって）原子力発電所の安全対策につい

て知ることが大切である」「能登半島地震についても色々と情報発信をしてほしい。情報発信にあたっては、インターネットも活用したらどうか」「過去の不適切事案の風化に関し、時間の流れは速いので、若い社員にとっては実感が無いのではないか。そういった不適切事案を自分事として強く意識できるかどうか、また不適切事案の教訓を今後どうやって活かしていくのかという懸念がある」「運転経験がない社員にとって今は緊張感が高まっており、再稼働というよりも新規の稼働としてプレッシャーを感じているのではないかと。こういった点について新たな取組みとしての位置づけが必要である」「一般的に若い社員は、管理職よりも経営層の意見を聴きたいという傾向にある」「自分の周囲の多くの人が、ヒューマンエラーに対する漠然とした不安を感じているようである」等がありました。

- ・ 本日、皆さまから様々なご意見をいただき、2点ほど痛感しました。1点目は「原子力発電に対する漠然とした不安を持っている方々が依然としておられ、そういった方々にとっては2号機の再稼働が近づく中、本当に大丈夫かという懸念を持たれている」こと。今後も、これまで以上に丁寧で分かりやすい広報や情報発信に努めていく必要があると再認識しました。また2点目は「若い社員と管理職、更には経営層とのコミュニケーションや信頼関係づくりが大切である」こと。この点についても、引き続きしっかりと取り組んでいきたいと考えています。
- ・ 本日もいただいた様々なご意見・ご提言を踏まえ、当社および協力会社が一体となって再発防止対策に継続してしっかりと取り組み、原子力安全文化醸成活動の一切の強化に努めてまいりたいと考えております。
- ・ 再発防止対策や原子力安全文化醸成活動の取組状況については、今後も有識者会議において適宜ご報告するので、変わらぬご支援を賜るようお願い申し上げます。
- ・ 今年3月29日で1号機の営業運転開始から50年を迎えます。これも、ひとえに地元の皆さま、そして多くの関係者の皆さまに支えていただいたお陰であり、この場をお借りして心から感謝申し上げます。「地元の皆さまの信頼あってこそこの原子力発電所である」ということを今後も肝に銘じて取り組んでまいりますので、引き続き島根原子力発電所をどうぞよろしくお願い申し上げます。

以 上